

クラシック部門

1位

2位

音のバランスが  
抜群に良い!

ゼロオーディオ

## ZH-DX200-CT

SPEC:ドライバーユニット:φ5.78mm  
再生周波数帯域:8~24,000Hz  
インピーダンス:16Ω/コード長:1.2mバランス  
型

カナル型

カラー  
1色

music match

CLASSICAL  
ACOUSTIC識者  
eyeサウンド  
プロデューサー  
大澤大輔さんピュアな音への考え  
抜かれたコンパクトボディ

高強度で制振性に優れたカーボン・ファイバーと、イヤチップ装着部の削り出しアルミで強化した「コンポジットハウジング」を採用。本体の中心には平織模様が美しいリアルカーボンを配することで、共鳴振動を抑えてスピーカーの性能を余すところなく発揮させた。高・低音域のレンジ感の広さとキレの良いサウンドを実現する。重さは3.2gの軽量で、スタイリッシュな見た目も好印象なイヤホンだ。

コンテストでも  
高評価な製品!

高音	中音の解像度	低音	装着感	過音性	表現力	クリア	価格
45	46	40	41	46	44.5	48	45.5
A	A	B	B	A	B	A	A

合計  
356

CHECK 02



## 小型で高性能なドライバー

中低音域の豊かな表情を得意とする5.78mm超小型マイクロドライバーユニットを搭載。タイトでコンパクトなフォルムが美しい

CHECK 01



## 良音に必要な上質ケーブル

酸化物を含まない99.95%以上の高純度銅のOFC(無酸素銅線)を使用したフレキシブルケーブル。伝送漏れが少なく純粋な音源伝送を可能にする

この価格で  
この音!

高音・低音ともに全ての音が聴こえ、バランスがダントツに良い! 音の解像度も高い! 遮音性も十分。

個人的には1位

ピアニスト・作曲家  
扇谷研人さんゼロオーディオが  
堂々の1,2位!

満場一致で決まった堂々のワンツーフィニッシュ。3位とは20点以上の差だ。低音域から高音域まで変なギミックや誇張がなく、すべての周波数がきれいに聴こえ、音の解像度も高い極上品が揃った。

識者を唸らせた極上イヤホンに、座談会では製作会社について知りたいという声まで上がった。調べてみると、ゼロオーディオの生みの親、協和ハイモネット株式会社が電線などの事業が主流だが、オーディオ好きな上層部の声により新事業部を立ち上げ、ごまかしなしの最高品質の音作りに取り組んでいったのだ。音を追求める飽くなき探求が、スーパースターの製品を生み出した背景だった。

総合1位と2位のゼロオーディオの素晴らしさはすべての音がバランス良く聴こえるうえ、低コストであることが飛び抜けた高い評価につながった。両製品は甲乙つけがたいが、違いは製品のテストにある。と識者は話す。それはジャンル別評価に表れた。ZH-DX210CB(1位)は音の情報量が多いポップスでトップの座に。その量を扱えるパワーを持ったドライバーのなせる技からだ。ZH-DX200-CT(2位)はクラシックのナンバーワン。小型ドライバーのため、低音域のさらに低い音域「Sub Low」の届きが少ない。しかし、クラシックにはこの音域がほとんどないため、音をそのまま聴くことができたのだ。好きな曲でイヤホンを使い分けることは、音楽タイムをより充実させる近道と実感した。

あいのまま聴ける  
ギミックのない音が◎

音楽そのものがピュアに聴ける

ゼロオーディオだけレベルが違う!